

北海道大学学術成果コレクション

HUSCAP レター

ダウンロード数 1,000 万回突破記念号

2011年10月4日に学術成果コレクション (HUSCAP) のダウンロード数が1,000万回を達成しました。1,000万回目の文献の著者で、かつ本学を特徴づける「世界レベルで見て優位性のある研究分野」に選定された「心の社会性に関する研究」の中心メンバーでもある山岸先生にお話をお伺いしました。



私の研究

山岸 俊男

大学院文学研究科・文学部特任教授

本学の社会科学実験研究センター (CERSS) を中心として展開されてきた共同研究『心の社会性』も、そろそろ終わりを迎つつあります。その前の研究『心の文化・生態学的基盤』の開始から数えると、すでに10年近く経過しました。

その間、日本におけるいわゆる「文系」の研究環境も大きく変化し、以前ののどかな研究室の雰囲気も今ではセピア色に包まれた昔の物語になってしまいました。

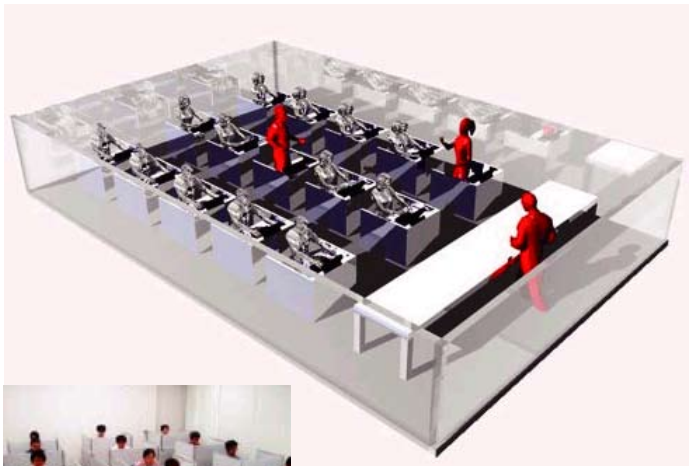
私自身が20数年前にアメリカから日本に戻った理由の一つが、パブリッシュしやすい目先の業績稼ぎへと駆り立てるアメリカでの研究環境に疑問を持つと同時に、そうしたパブリケーション競争に過剰適応しつつある自分の姿にある種の恐怖を感じたからであることを想いおこすと、自分が振り出しに戻った気がしています。

定年を迎えた今後は、ラットレースではなく、振り出しの根源的な問いに戻った研究に没頭したいですね。

学位論文を HUSCAP で公開しませんか？

学位論文の電子ファイルと「学位論文登録同意書」をお送りください！

詳しくはこちら→http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/thesis/thesis_ja.jsp



CERSS の集団実験室：
16 のパーティションつきデスクが
設置され、他者の存在を意識しつづ
行う集団内行動の実験に用いる。

さて、現在の共同研究のテーマでもあり、また私自身の研究テーマでもある「心の社会性」について、私自身、あるいは私たちの研究グループがどんな研究をしているのかを、少しばかり紹介させていただきます。

人間が本質的に社会的な存在だということについては誰も否定しないと思いますが、その意味については、実はここ20年くらいの間に変化が起きています。

しばらく前までは、人間が社会的な存在だということは、人間の心は生まれたときには白紙であって、その白紙の心に文化が注入されることでいわゆる「人間性」がかたちづくられるのだ、ということの意味していました。言い換えれば、生物種としてのヒトに特有の「人間性」などというものはそもそも意味がなくて、文化にこそ人間を人間としている本質が存在しているのだという理解だと言って良いでしょう。

しかし過去20年間に、心理学、認知科学、脳神経科学などの発展、社会科学における実験研究の展開などが起こり、その結果として、人間の本質的社会性についての理解にも大きな変化が生まれてきました。

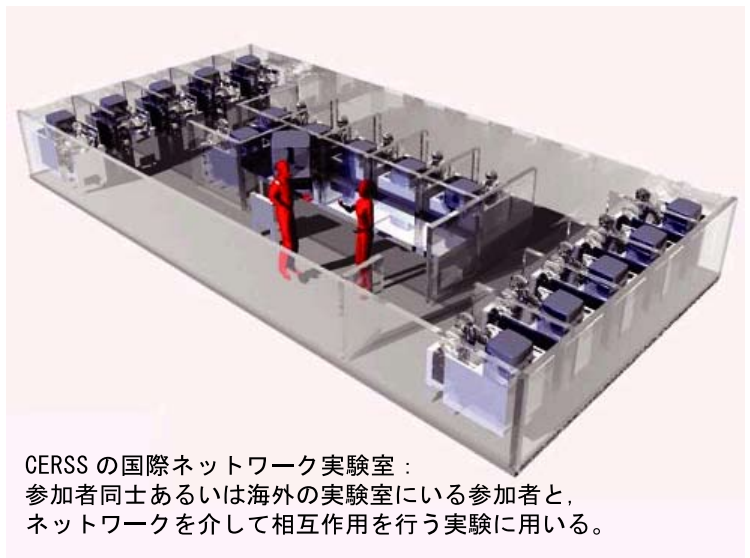
ヒト（つまり生物種としての人間）は、他の動物種に比べて大きな脳（特に前頭葉）と高い知能を進化させてきたという点でユニークですが、それだけではヒトのもう一つの特徴である、協力的な種であるという特徴を説明できません。哺乳類や霊長類では、ヒトほど協力的な種はいません。ヒトは血縁関係を越えた大きな範囲で互いに協力することができるという点で、他の種と大きく異なっているのです。

20世紀の終わりから21世紀に入って注目されるようになった人間の本質的社会性とは、ヒトは協力種であるという意味で、他の動物種とは異なっているのだということの意味をしています。

こうしたヒトに特有の社会性（利他性や互惠性、共感性などのポジティブな側面と、攻撃や他集団に対する差別につながるネガティブな側面をともに含む）が現代人の行動にどのように表れているかを実験を通して明らかにし、そうした知識を社会の設計に役立てるためにはどうしたらよいかを考えるのが、私たちの研究の大きな枠組みになっています。

こうした心の社会性についての研究は世界的にも急速に展開が進み、先日訪問したシンガポールの南洋技術大学にも、本学の社会科学実験研究センターをモデルに新たに実験施設が設置されていました。現在の共同研究は本年度で終了しますが、今後も社会科学実験研究センターを中核とした研究が世界の研究を牽引し続けていくことを期待しています。

HUSCAPのダウンロード1,000万回目に私の文献が該当したのはまったくの偶然ですが、本学の研究成果を広く世界に届ける仕組が着実に機能しているのは一研究者として喜ばしく、今後が楽しみでもあります。



CERSS の国際ネットワーク実験室：
参加者同士あるいは海外の実験室にいる参加者と、
ネットワークを介して相互作用を行う実験に用いる。

HUSCAP で山岸先生の研究成果を読むことができます。

集団内協力と評判心理

新世代法政策学研究 = Hokkaido Journal of New Global Law and Policy
第10巻 2011年2月：109-144
<http://hdl.handle.net/2115/45067>